

宣言

我が無産大衆和實の要求に聴き、我が農民独自の社会的位地に鑑み、斷乎、直譯者流の指導方針に反對して、我が日本農民黨は昨秋、必然そのもの如くに巨然として誕生した。然り、我が日本農民黨の誕生は必然であつた。見よ我が黨の雄姿一度地平線上に現はれるや、これ迄、單一無産政黨の錦旗の下に隠されたる直譯者流指導方針の誤謬は天日の下に曝され、遂に分裂に次ぐ分裂の醜を以て、その誤れる指導理論の自己清算續けざるを得なかつたではないか。

われ等は信ずる、政治の要諦は、自ら生産に従事する國民層の利便に立脚して、諸々の社會生活を規定するに在ると。然り、右の立場に於て一國の政治が規定せられる時、歴史は常にその社會の繁榮せることを語り、然らざる政治の存在するとき歴史は常にその社會の衰亡せることを實證してゐる。

然るに、我が政治の現状はどうだ。見よ、農村に於ては生産に何等従事するところなき地主の利益が、現實生産に従事しつつある小作人のそれを、王者の如く蹂躪してゐるではないか。見よ工場に於ては、生産に何等従事する所なき株主の利益が、現實生産に従事しつつある労働者、勤勞者のそれを、奴隸の如く虐げてゐるではないか。見よ都會に於ては粉骨細身の中小商工業者の利益が、大層高樓に遊食する大資本の利益のために豚の子の如く犠牲に供せられてゐるではないか。即に見よ、金融大資本家の最近の失行を保護するためには國民から九億余圓の巨額を取立てて之に惠與しながら、農民が天災のたあに作物を失へるに對しては宛も之を知らざるもの如く放置してゐるではないか。之れ、改めて言ふまでもなく、我國已成政黨の政治が、生産階級に立脚せず、資本階級に其の基礎を置き之と結託せる實證である。而して今日に於ける我國が無産大衆の生活難、今日に於ける我が經濟の衰微の根因は要するに茲に在る。

我が日本農民黨誕生の目的は、要するに斯くの如き資本家本位の政治を、合法的手段に由つて、生産者本位の政治にまで變革せんことを期するに在る。之れ、嘗に無産大衆の利益を正當に擁護する唯一の幹道たるのみならず、又、今日の我が經濟的衰微を打開して、新に我が社會全般の繁榮を斷らんとする唯一の方法であるからである。

去の乍ら、等しく生産者本位と言ふも、農民、中小商工業者、自由職業者等の如く、自ら獨立して生産に従事しつつある階級と、工場労働者の如く、賃銀労働者として生産に従事しつつある階級と、工場労働者の如く、賃銀労働者として生産に従事しつつある階級とでは、少からずその生産方法の社會的關係を異にする。従つて、その故にまた、「生産者本位」と言ふ同一目的を達成する方法に多かれ少かれ差違を生ぜざるを得ない。われ等は、卒直にこの嚴肅なる事實を認める。而して、いま之れを我が現狀に顧るに、生産階級の人口總計約二千七百萬人中、所謂プロレタリア即ち賃銀労働者に屬するものは多くもその三分の一を越さず、少くも他の三分の二は獨立生産に従事しつつある階級である。就中その獨立生産者の大部分を占むる者は農民である。

われ等は、この二つの立場が、それ／＼正當に認識せられ公正に代表せられて、茲に始めて、所謂勞農提携は成立すると信ずる。然るに、不幸にして農民に由つて代表せられる獨立生産者の立場は、從來、意識的にも無意識的にも、少からず無視せられ來り、労働者のそれが特に強調せられて來たのである。斯くの如きは眞に、勞働提携の實を擧ぐる所以でなきこと言ふまでもない。茲に於て、われ等は、眞に我が無産大衆の解放を期するため、先づ前提として、農民に由つて代表せられる、右の獨立生産者の要求を、正當に認識し、代表することの最緊要なることを主張し來つたのである。然り、斯くしてのみ、我が無産階級三分の二を占むる農民大衆及び其他の獨立生産者の利益は始めて擁護せられ眞の勞農提携の道はここに拓かれるのである。之れ、我が無産大衆の要望が日本農民黨の誕生を必然ならしめたわけである。而して、此の立憲精神が、如何に我が無産大衆の要求に合致せるかは、その誕生以來僅に一ヶ年にして、我が黨が、斯くも大多數の大衆の支持を得たることに由つて最も雄辯に之を語り得る。

いまや、我が黨第二回の大會を開くに方り、無産政黨の陣管内に於ては、過去一ヶ年の經驗に教へられて、再び合同期問題が擡頭するに至つた。此の際に於て、われ等は、あくまでも、我が立憲の精神に基き、我が無産大衆眞の解放の爲めに、全力を傾注して、猛進せんことを誓ふ。右宣言する。

昭和二年十二月一日

日本農民黨